

平林寺半僧坊大祭

◆ 初夏を告げる大祭

はんそうぼう
半僧坊とは天狗の姿に似た山の守り神です。家内安全、厄災消除、諸願満足など、現世の利益を叶える「はんそうさま」として地元の人々の厚い信仰を集めてきました。
その靈験あらたかなご利益をいただく平林寺半僧坊大祭は、毎年4月17日に行われます。平林寺の半僧門はんそうもんはこの日に限り開門され、通行自由となります。

◆ 半僧坊縁起

おくやまほうこうじ
半僧坊は臨済宗奥山方広寺（静岡県浜松市）の奥山半僧坊大権現だいこんげん（仏や菩薩が衆生を救うため姿を変えて地上に降りてきた神）が起源です。半僧坊大権現は鎌倉建長寺にも祀られており、平林寺半僧坊は建長寺より明治二十七年（1894）に分霊されました。方広寺、建長寺、平林寺は三大半僧坊として全国に知られ、各寺院では年に1度の大祭が催されます。

はんそうぼうかんのうでん
平林寺境内の半僧坊感應殿を参詣すると、殿内の奥に法衣をまとい袈裟をかけた一対の鴉天狗の平林寺半僧坊大権現を見ることができます。

◆ おねり（祭礼行列）と祈祷法要

午後2時、大鐘の音を合図に稚児・寺院世話人・楽師隊・僧侶による華やかなおねり（お練り祭礼行列）が境内を出発します。おねりは仏殿、山門、総門を通過し、歩行者天国の大門通りを練り歩きます。

そして半僧門をくぐって再び境内に入ると、参道を通り半僧坊感應殿に入堂。殿内では、僧侶が世界の平和と人々の幸せを願い祈祷法要を厳修します。大般若経600巻の転読と読経による法要を終えると、おねりは来た道に戻ってふたたび練り歩き大祭は厳かに締めくくられます。

〔平林寺公式ホームページより〕

平林寺公式ホームページ
／平林寺半僧坊大祭

